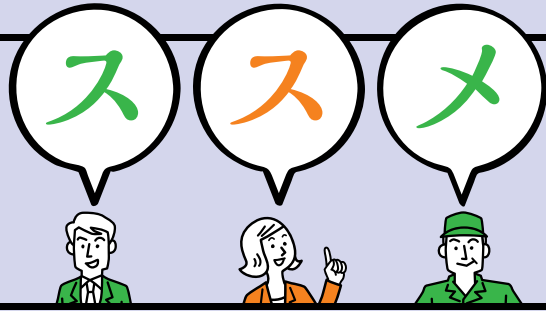


# がん対策の

## ニュースレター



日本は、2人に1人が“がん”になり、3人に1人が“がん”で亡くなる世界トップクラスのがん大国です。がんの6割が治る今、がんを抱えながら働く人も増えています。これから一緒に、がんについて学んでいきましょう！ぜひ、あなたの大事なご家族や、職場のみなさんと読んでみてください。



### Dr.中川のがん通信

#### ～がんが転移するしくみ～

## 「がんもどき理論」が間違いである理由③

こんにちは。がん対策推進企業アクション議長の中川恵一です。今回も引き続き、がんもどき説がなぜおかしいのかを考えてみたいと思います。前回のニュースレターでは、がんもどき説に基づいて実際の医療行為を行うためには、数量化派的な根拠が必要であることを説明しました。

数量化派の視点から、がん放置療法の真偽を判断するにはどうしたらいいのでしょうか。数量化派の研究には色々な方法がありますが、それらの方法の中で最も強い説得力を持つと考えられている方法は、**無作為化比較試験**という方法です。いかめしい名前ですが、簡単に言えば、似たようながん患者さん（病気の種類、進行度だけでなく、年齢、性別、がん以外の疾患など寿命に影響を与えそうな要素が似通っていることが必要です）を募集します。例えば200名集まったとしましょう。そうしたら**100名に病院で通常やっている治療を行い、残りの100名は放置**します。そして研究開始日から亡くなる日まで患者さんが生きていた時間（生存時間と言います）を測定します。最後に治療したグループと放置したグループで生きていた時間の長さに差があったかどうかを検討するのです。

がん放置療法が正しと主張するためには、放置したグループの生存時間が、治療したグループの生存時間より長いか少なくとも同じであることを実証する必要があります。もし治療したグループの生存時間の方が長かったとしたら、治療は有効であると言わなければなりません。では実際のデータはどのようなのでしょうか？結論を言えば、そのようなデータはないのです。つまり**治療と放置を直接比較した正式な研究結果は存在しません**。

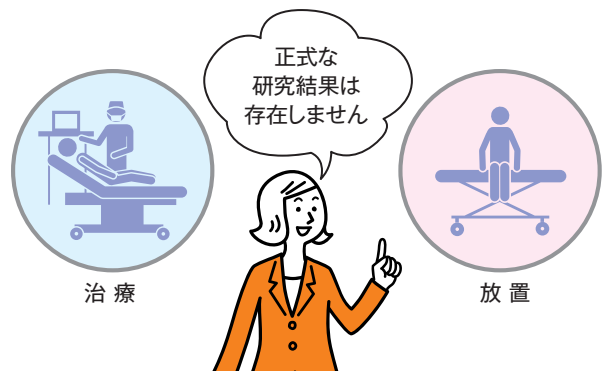
なぜでしょうか？ここには倫理的な問題があるのです。数理派の手法を使ってどんな治療法を比較することも理論的には可能です。しかし倫理的な観点からは、明らかに有効と思われる治療がある場合には、それを上回る可能性が十分に期待できる治療との比較しか許されないのは言うまでもないかと思います。

ある医師がある治療を有効だと思っていても、それだけでその研究が許されるわけではありません。実際には倫理審査委員会と

いうものが、各大学病院などに設置されており、そこで複数の専門家が研究の妥当性について検討し、許可されたものだけが研究できるのです。

従ってもし、近藤誠医師が本当にごん放置療法を正しいのだと主張するならば、倫理委員会の審査を受けて、無作為化比較試験を行い、結果を開示する必要があります。しかしそういう取り組みはなされていません。実際に申請しても許可はおりないだろうとは思いますが、要するにごん放置療法には、数量派的な根拠、今日の医学で必要とされる根拠は何もないことになります。

ここまでメカニズム派の視点、数量化派の視点から、がんもどき理論とがん放置療法に根拠がないことを明らかにしてきました。では結局、これらの理論の根拠は何だったのかと言えば、残る1つ、直感派であることが明らかでしょう。要するに近藤誠医師の個人的な経験だけに基づく主張であるということです。がん放置外来というものを実際にされていたようですから、個人的ななんらかの経験はあるのだらうと思います。しかし今日その論法でものを言うことはルール違反だと言えるでしょう。数量的な根拠を重視することが世界的なコンセンサスだからです。



中川 恵一（なかがわ けいいち）

東京大学医学部附属病院放射線科准教授。厚生労働省の「がん対策推進協議会」委員、「がん対策推進企業アクション」アドバイザーボード議長。「がんのひみつ」（朝日出版社）などのがんに関する著作多数、現在毎週日曜日、日経新聞朝刊で「がん社会を診る」連載中。

# がん検診のススメ 第③版 内容のご紹介

「がんを知り、がんと向き合い、がんに負けない」ための情報を盛り込んだ冊子『がん検診のススメ 第3版』。2人に1人ががんになる日本。働く人やその家族の命を守るためには、がんについての知識を持つことが欠かせません。また、がんになっても働き続けられる環境づくりも大切です。



●この冊子は「がん対策推進企業アクション」の推進パートナーに新規登録していただいた企業の皆さまにお配りします。

◎はじめに

◎がん対策の「切り札」は、がんを知ること

- (Q1) 私でも、がんになりますか？
- (Q2) どうしてヒトはがんになるの？
- (Q3) よく「良性」「悪性」と聞きますが、違いはなんですか？
- (Q4) がんを防ぐには？
- (Q5) 感染による「がん」もあるって本当ですか？
- (Q6) 男性が気をつけるべきことは？
- (Q7) 女性が気をつけるべきことは？
- (Q8) がんの症状を教えてください
- (Q9) 一度がん検診を受けたら、しばらく受けなくてもいいですか？

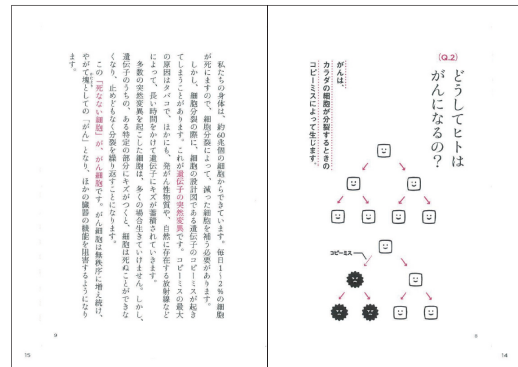
◎早期に見つければ、働きながら治せます

- (Q10) がんになったら、もう治らない？
- (Q11) がんになると、仕事を辞めなければなりませんか？
- (Q12) がん治療には、長期入院が必要ですか？

- (Q13) お金はどれくらいかかりますか？
- (Q14) がん検診にはどんなものがありますか？
- (Q15) がんは「放置」する方がよいと聞いたのですが？
- (Q16) がんの激しい痛みが怖いのですが？

◎おわりに

◎がん検診を受けるには？



公式サイトのご紹介

がん対策推進企業アクション

検索

<https://www.gankenshin50.mhlw.go.jp>

がん検診に関する様々な情報をはじめ、就労支援に関するあれこれ、部位別5大がんの説明、検診の種類などの情報が満載です。



スペシャリストQ&A

本レターや公式サイトにてがんに関する専門家がこたえてくれるQ&Aコーナーを設置しています。

【がん検診に関する質問】をぜひお寄せ下さい。



●お問い合わせ方法

パートナー専用ページの問い合わせフォーム(メール)からお問い合わせください

このニュースレターは、がん対策推進企業アクションのパートナー企業の皆様に毎月1回お届けいたします。がん検診啓発ツールとしてお役にください。

●お問い合わせ先

がん対策推進企業アクション事務局  
厚生労働省委託事業  
平成28年度「がん対策推進企業等連携事業」

Tel. 03-3823-0056 Fax. 03-3827-1995  
E-mail : info@gankenshin50.mhlw.go.jp

